

本新1号公園マネジメントプラン（概要版）

道下地区公園魅力向上推進協議会

<公園の概要>

面積：2,974㎡ 所在地：本新町1706
 公園種別：街区公園
 用途地域：第一種中高層住居専用地域
 避難所：指定緊急避難場所（一次避難所）
 主な施設：遊具（砂場、ブランコ、滑り台）、ベンチ
 トイレ（男子、女子、多目的）、水飲み器、照明

<利用状況（意見）>

- ・ボール遊び・子供の自転車練習で利用することがある。
- ・ドングリ拾いで利用することがある。

<問題点>

- ・子供は近くにある道下公園をよく利用する傾向にあるため、利用者が少ない。
- ・女性にはトイレが使いづらい。
- ・落ち葉が多い。
- ・遊具周辺の地面が高木の根上がりにより凹凸が生じている。
- ・日射しや雨を遮る四阿が無い。
- ・フェンスに防球機能が乏しい。

- R4.6月 第1回 趣旨説明、公園の現状・改善すべき点について（意見聴取）
- 7月 第2回 道下まちづくり委員会の取組報告、公園毎の方向性検討
- 8月 第3回 公園毎の機能再編・再整備内容の検討
- 10月 第4回 公園毎の目指すべき姿（将来像）の決定、維持管理・機能再編・改修整備方針の検討
- 11月 第5回 公園毎の再編イメージ図・プラン内容の検討
- 12月 公園別マネジメントプラン（案）作成
- R5.1月 公園別マネジメントプラン（案）記載内容の確認（書面）

公園の目指すべき姿 「安心してくつろげる公園」（将来像）

機能再編方針

公園の目指すべき姿を実現するため、近隣の街区公園との機能分担により、当公園は、「休養」と「遊び」を主たる機能として施設の再編を図る方針とします。
 遊具周辺の高木の根上がりや施設の老朽化が見られることから、施設の配置を再検討し、地域住民が安心して気軽に利用できる安全な空間を目指します。

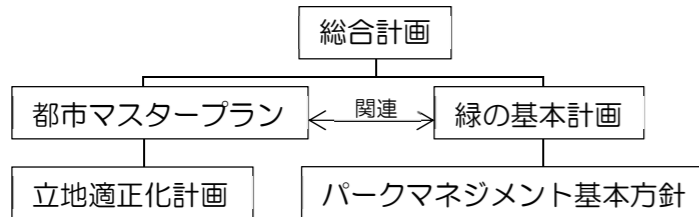
公園の持つ機能の分類

機能	施設の例など
① 遊び	複合遊具、単体遊具、砂場 ボール遊び等自由に遊べる広場
② 休養	ベンチ、あずまや、水飲み場、ピクニック広場、野外卓 開放的な植栽、緑陰
③ コミュニティ	地域活動・市民活動の場 (花壇づくり、市民農園、イベントスペース)
④ 健康づくり	ジョギングやウォーキングに適した園路、腹筋運動のできるベンチ 背伸ばし・ぶら下がり運動のできる健康遊具
⑤ スポーツ	バスケットゴール、ゲートボール場、フットサル場 スケートボード場
⑥ 防災	生垣や燃えにくい樹種の植栽、非常時に「かまど」になるベンチ マンホールトイレ、非常時にテントになるパーゴラ、防災倉庫
⑦ 自然	大規模な樹林や水路、ビオトープ 自然に触れられる散策路
⑧ 景観の形成	象徴的な都市空間や良好な街並みの形成、地域固有の景観保全・活用 (四季を感じる花木、ケヤキ並木、シンボルツリー、歴史施設関連)
⑨ 環境の保全	生物多様性の確保、ヒートアイランド現象の緩和、地域固有種の保全 (自然観察園、緑道、〇〇の森)

魚津市パークマネジメント基本方針（R1.7月策定）

基本理念 「公園で地域の魅力と価値を高める」

目指す公園像 ・人々が集い、つながりを生む公園
 ・地域の愛着と誇りを育てる公園



【今後の公園の整備、運営にあたって重視すべき基本的な視点】



【機能の再編】

○みんなが使いやすい公園になるように、役割を「みなおす」。



公園施設毎の方針

遊具：更新等の際は、道下公園との重複を考慮した種類を選定するとともに、公園海側での配置を基本とする。
 植栽：繁茂し過ぎて見通しが悪くなっているものや、公園利用に支障のある樹木は剪定・伐木を行う。
 トイレ：内部設備や外壁の改修・修繕を行う。
 水飲み器：バリアフリー対応型への更新を検討する。
 ベンチ：日よけ・あずまやの新設の検討に併せ、仕様や適切な配置を検討する。
 広場：公園山側へ子供のボール遊びを誘導するよう施設の再配置を図る。
 外柵：更新等の際は、公園の機能に合致した空間になるよう、高さや仕様の見直しを行う。

今後の取組・課題など

- ・再整備へ向けた実施設計
- ・周辺環境などの変化に応じたプランの見直し
- ・利用状況の把握、公園利用ルールの検討、多様な主体との連携手法の検討など

（再編イメージ案）

